

赤谷プロジェクト 近況報告

「第一回ムタコの日」が 開催されました

赤谷の森のエリア3（法師沢・ムタコ沢エリア）は地域の水源・温泉水を支える自然が広がる地域で、水源としての機能の回復・復元を第一に考えています。

このエリアにあるムタコ沢は地域の約五割の給水人口をまかなうことができる重要な水源となっています。そこで、地域の水源であるムタコ沢、さらにはその周辺に広がる森林について、地域の住民の皆さんに知ってもらうという取組が「ムタコの日」として、8月26日に赤谷プロジェクト地域協議会が中心となり開催され、



参加者にノコギリによる伐採方法を説明

スタッフも含め35名の参加がありました。

当日は自然観察会と森林再生講座の2部構成になっており、自然観察会では外部講師やセンサー職員から森林の土壌が水資源を豊かに保つ仕組みなどを、実際に土を触りながら学びました。また、森林再生講座では参加者がカラマツ林の手入れを行いました。初めて木を切った方も多く、なかなか思ったように切れない場面もありましたが、皆さんさわやかな汗を流されていました。

「ムタコの日」は、今回が一回目の取組ですが、今後、地域住民の皆さんに自分たちの水源の森を知ってもらう活動として、地道に続けていく必要があります。

千葉森林管理事務所との連携

9月6日にプロジェクト隣接地にある千葉市の施設「高原千葉村」で自然体験学習を行っている千葉市稲毛中学校の生徒9人が、いきもの村を訪れ自然体験を実施しました。この日はネイチャートレイルを歩きながら、花の匂いをかいで何の匂いに似ているか話し合ったり、カエデの仲間でもいろいろな種類があることや、ドングリに卵を産みその枝を切り落とす変わった昆虫の話などをセンサー職員から聞いた後、センサーカメラの設置を行いました。生徒達はセンサーカメラによってどのような



カエデについて説明

な動物が撮られたか、そしてその写真からどのようなことが分かるかを学びました。その後、ムササビのエンカウンタースペース（野生動物の観察スペース）をのぞくと、目の前にムササビが現れ、生徒達は脅かさないよう口を手を当てながら歓声を上げていました。野生のムササビを間近で見たことは強烈な印象を生徒達に与えたようで、生徒のひとりがこの感動を地域のラジオ番組に投稿したそうです。先月号でも書きましたが、いきもの村のムササビはいろいろと子供達に夢を与えてくれます。

森林生態系スペシャリスト 養成研修の実施

毎年実施されている関東森林管理局の研修の一つである「森林生態系スペシャリスト養成研修」の現地実習が、今年も「赤谷の森」で開催さ

れました。今年は8月28日から30日の3日間、局管内の各地から森林官等9人の研修生が参加しました。

森林生態系について考える際は、森林のみならず、そこに住む動物についても知ることが必要です。そこで、赤谷センターで取組んでいる様々な活動を知ることが、森林生態系を考える際の重要なヒントになります。このため、現地実習の1日間は赤谷センター職員が講師となり、プロジェクト全体の取組や、上流と下流の連続性を確保し溪流環境を復元するための取組、そして猛禽類の生息環境等に配慮した森林整備やセンサーカメラによる動物の調査手法について講義と実習を行いました。研修生の皆さんには、地元に戻り森林生態系全体を考える視点を持ちながら、日々の業務に生かして頂きたいと思っております。



センサーカメラの構造の説明

（赤谷森林環境保全ふれあいセンター）